

2023年度 学校自己評価シート(浦和実業学園高等学校)

目指す学校像	「実学」に勤め徳を養う(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の伸長(授業の充実と家庭学習の習慣化、能動的な学習態度の涵養) 2 自己実現のための進路指導の充実(進路実績の向上・高大連携への対応) 3 徳育の推進(基本的生活習慣の確立と人格の陶冶) 4 実学の実践(学校行事の充実と地域社会との連携) 5 生徒募集活動の充実(志願者数の増加と募集定員の確保)
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者
懇話会委員5名
学校関係者6名

学校自己評価			2023年度評価		学校関係者評価
年度目標			2023年度評価		実施日2024年6月15日
番号	現状と課題	具体的方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策

1	<p>○本校は普通科5コース(除一貫)、商業科2コースあり、幅広い学力層の生徒が各々目標を定め学習に取り組んでいる。生徒の理解度には個人差があり目標も異なるので、各生徒の意欲や能力を把握し、コースの特色を活かした学習指導が必要である。</p> <p>○学力の三要素「①知識・技能」「②思考力・判断力・表現力」「③主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成を目的とした学習が必要であることが新学習指導要領にも記載されている。これらを生徒に身に付けさせるためには、ICT教育やアクティブラーニングを今まで以上に前面に押し出した授業や生徒が自ら考え行動できる教育環境作りが必須である。</p> <p>○教員のスキルアップに向けた校内・校外研修はこれまで組織的に実施しており、引き続き内容を精選して行う必要がある。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大の影響で欠席者が多いクラスや学級閉鎖のクラスを対象にリモート授業や「スタディアプリ」「Classi」を利用した課題配信を行った。これにより生徒の家庭学習の様子を改めて確認することができ、今後の改善すべき指導方法(課題の質や量など)についても再確認することができた。</p>	<p>○授業や定期考査はもちろん、小テストや単元テスト、模擬試験、休業中の課題等を通して生徒一人ひとりの理解度を正確に測り、それぞれに応じた学力伸長を図る。</p> <p>○新学習指導要領をふまえ、選定した新教材用の教材を有効に使い、iPad等を用いた授業(ICT教育)を積極的に行う。</p> <p>○2018～2020年度に実施した第三者授業診断で得た「授業観察のポイント」を活かし、昨年度の校内研究授業は、教科や学年の垣根を越えた「授業相互見学」として実施した。iPadを用いたICT教育や生徒の主体性を伸ばすアクティブラーニング等、今後の学習活動に必要な点や改善すべき点を教員が互いに知る非常に良い機会となったので、今年度も授業見学の期間を長く設定し、実施する。</p> <p>○「授業アンケート」を実施し、生徒の意識を理解したうえで授業改善につなげる。また、生徒自身の授業に取り組む姿勢についても再確認させる。</p> <p>○課程・コースに応じた学習課題を日常的に与え、授業内容を補充するとともに、家庭学習の習慣を身に付けさせる。また家庭での学習をより充実させるため、「スタディアプリ」「Classi」を用いて学習課題を配信し、確認テスト等を実施する。さらに担任および教科担当者が個々の学習状況(学習時間や到達度等)を把握し、学習指導を効率良く行う。</p>	<p>○昨年度からの新学習指導要領に伴い導入された観点別評価の方法を含むシラバスをもとに、学力の三要素「①知識・技能」「②思考力・判断力・表現力」「③主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成を目指し、昨年の反省等も踏まえ学習指導を行ったことで、生徒の学習意欲や学力の向上につなげることができた。</p> <p>○数年前までは、代表者のみが授業を行う形式で校内研究授業を実施していたが、昨年度同様、2023年10月～2024年2月までの約5ヶ月間の期間を設け、学校全体で教科や学年の垣根を越えた「授業見学」を実施。2学期以降3号館・5号館の全教室にプロジェクターが設置され、これまで以上にICT機器を用いた授業や生徒の主体性を伸ばすアクティブラーニング等、観点別評価のポイントとなる取り組みが実践され、それを互いに見学することで参考点や改善点を見つけ、より良い授業につなげていった。</p> <p>○授業アンケート(生徒対象)を11月に実施。集計結果をもとに各教科会議で協議し、授業改善につなげた。</p> <p>○「Classi」や「スタディアプリ」等を用いた家庭学習課題配信等がきっかけで家庭学習の習慣が身に付いた生徒も多く、教員もこれらのアプリケーションを利用した学習指導のスキルが向上し、生徒一人ひとりの学習状況の把握も効率よく行うことができた。</p>	B	<p>●観点別評価方法及び新学習指導要領の学習体制も次年度で3年目を迎えることになる。必要に応じて教科会議や学年・コース間での成績会議等で改善・更新していきたい。</p> <p>●校内研究授業を前期・後期に分け、新人教員の育成と、更なるICT機器を用いた授業展開やグループワーク等、能動的な学習の構築を目指すよう検討したい。</p> <p>●昨年度の授業アンケートは用紙での提出・集計であったが、今年度はClassiを用いて実施した。次年度はアンケートの内容や種類を増やし、さらなる充実を図っていきたい。</p> <p>●Classiやスタディアプリを有効に使うことで生徒の家庭学習状況の把握や課題配信等が効率よくできたので、次年度も有効に活用したい。</p>	<p>学力の伸長には家庭学習の習慣化が必須である。ホームルームや面談といった機会だけではなく、classiでの課題配信や学習時間の管理などが行われているのはよいことである。</p>
---	---	---	--	---	--	--

2	<p>○22年度卒業生(23年3月卒業)の進学状況は、私立大学の現役合格者数が昨年度より著しく増加した。特に選抜Aコースは早稲田1名、GMARCH19名と昨年度の8名から実績を大きく伸ばした上、国立大学にも3名合格した。これは丁寧な進路指導の結果であり、特進部だけでなく選抜α・選抜・進学コースからも有名私立大学に多数の合格者が出た。大規模校での進路指導は学年単位になりがちで、実績が安定しない傾向も見受けられるが、本校では20年度から合格者の増加傾向が続いている。今後も実績を残すために学年内の「横の連携」はもちろん1～3学年の間で「縦の連携」を継続的に行うことが重要である。</p> <p>○進路目標を達成するには生徒自身が自己の特性を把握し、早期に目標を設定する必要がある。そのためにコロナ禍ではあるが、本校進路指導担当者や学年が協力し、講演会等の進路への意識を啓発する行事を組んだり、上級学校と連携し見学会等を企画して学校を知る機会を多く作る必要がある。</p> <p>○授業を補充して学習向上を図るために課外の進学補習講座を充実させる。また、進路目標達成の一助となるよう、普通科・商業科ともに各種検定の取得を推進したい。</p>	<p>○各学年の進学係と本校進路指導担当者が連携し、外部講師を招いた進路講演会や大学見学会等、生徒の進学意識を喚起する行事を企画・立案する。</p> <p>○二者面談等を通して生徒の適性や進路目標を把握し、学力や適性に応じた進路指導を行う。あわせて、大学の入試説明会や予備校の進路指導研究会等(オンライン形式含む)に積極的に参加し教員のスキルアップを図る。</p> <p>○三者面談を実施して保護者と生徒の意思を確認し、進路目標実現に向けて協力関係を構築する。</p> <p>○単年度ごとの指導にならないようコースごとに成績や進路の目標を具体的に設定し、担任と教科担当が同一見解のもとに学習指導・進路指導を展開する。実績を継続させるために各学年・コースで連携するのはもちろん、所属学年を越えた縦の連携を図る。</p> <p>○大学等への入試形態が多様化しているため、学校推薦型・総合型選抜を希望する生徒に対し、「入試内容の確認」「小論文や検定級取得対策」「模擬面接」への主体的な取り組みを促す。同時に一般選抜に備えた受験科目の学習も並行して取り組むよう指導する。</p> <p>○一般選抜受験者に対しては、「志望校選び」「受験までの学習計画」をしっかり立て、最後まで諦めずに取り組むよう指導する。</p> <p>○課外の進学補習講座や検定対策講座を積極的に受講するよう促す。また、各学年で個別室(または自習できる場所)を準備し、生徒の質問等に対応できる環境作りを行う。</p>	<p>○進路講演会などの行事を各学年と進路指導室が連携して実施し、1～2学期にわたって生徒の進路意識の高揚を図った。主な具体的内容は次の通り。[リモート実施のものもあり]</p> <p>【4月】エゴグラム分析報告会(商業1～3年)【6月】進学ガイダンス・上級学校体験会(選進2年・商業2年)【7月】上級学校体験会(特進部1・2年)、進路講演会(選進1年)【8月】キャリアガイダンス(特進部1・2年)【9月】上級学校体験会、推薦・総合型選考委員会通過者進路ガイダンス(3年)【10月】英語学習講演会(特進部1年)、進路講演会(保護者対象・選進2年)、文理科目選択ガイダンス(選進1年)【11月】進路講演会(商業2年)、上級学校体験会(選進2年)【12月】入試直前ガイダンス(3年)</p> <p>○進路に関する教員研修を4月に実施。その後、普商別の分科会も実施した。7月には新任教員向けの進路指導研修を実施。各大学や予備校などの外部業者の進路情報は、進路指導室が集約・選択して教員へ配信し、生徒へフィードバックした。</p> <p>○三者面談を3年生中心に実施した。商業科3年は推薦希望者が多いために7～8月に実施。普通科は進路希望別に随時実施。保護者への進路情報の提供および意思の疎通を図った。</p> <p>○放課後実施している進学補習講座は、1年生15講座、2年生10講座、3年生21講座を開講した。また、夏休業中には成績不振の生徒に対する補習も実施した。</p> <p>○検定試験について積極的に取り組むよう促し、合格に向けた補習だけでなく、各教科の教員が個別指導を行い、現在までに日本実用英語検定では準1級に7名、2級に67名、準2級に170名が合格し、日商簿記検定では2級に9名、3級に19名が合格した。</p>	B	<p>●今年度の大学現役合格者数(一貫部除く)は【国立大学】15名、【早慶上理】15名、【GMARCH】26名、【日東駒専】56名、【大東亜帝国+拓殖】171名、【芝浦工業・東京電機・工学院】17名、【成成明国武+獨協・文教】23名であった。合格者数は昨年度より減少したが、これは卒業生数が前年度より205名少ないことが影響している。また、大学入試の傾向に応じて入試戦略は改めて必要があるため、進路指導研修会やコースごとの成績会議で入試状況の分析を行い、進路指導の更なる充実を図ってきたい。</p> <p>●普通科では大学現役合格者数(一貫部除く)が【国立大学】15名、【私立大学】692名と昨年度より減少したが、一方、特進コースの上位校合格者数は増加した。浪人が増加したコースもあるが、これは現役合格大学より上位の大学を目指すための前向きな浪人であり、次年度に大いに期待できる。</p>	<p>英検利用の大学入試制度が広く一般的になっているので、英検対策に更なる力を入れてほしい。ただし、国立大学希望の場合は英検対策がそのまま受験対策につながるわけではないので、個々のケースに応じた対応が肝要である。いずれにしても、3年生の1学期までに英検上位級が取得できるような指導が必要である。</p>
---	---	--	---	---	--	---

3	<p>○登下校時のルールやマナーについては継続的に行っているが、苦情の根絶には至っていない。今後も交通安全に関する指導はもとより、適切な対人マナーについても指導が必要である。</p> <p>○挨拶の励行や身だしなみを整えさせることは、高校生としての品格を高め、自覚を促すうえで非常に重要である。また、生活習慣の乱れが主たる原因と思われる遅刻者については、改善のために個別的な指導が必要である。</p> <p>○公共心を育み社会の一員としての自覚を促すため、通学路を中心に清掃活動を行い地域の美化に貢献することの教育的意義は大きい。今後も引き続き実施すべきである。</p> <p>○安心で安全な学校環境を確保するため、「いじめ」「体罰」に関するアンケートを定期的に実施し、教員は常に状況の把握に努める必要がある。</p> <p>○問題行動の未然防止と早期発見のため、教員は常に生徒理解の上に立った指導を心掛けなければならない。</p> <p>○心身の鍛錬と個性の伸長を期して部活動への参加を促すとともに、指導にあたってはアンガーマネジメントに配慮して行う。</p> <p>○重大事件につながる危険性の高い薬物乱用やSNS上の有害サイト等については、特に関係機関を活用した指導も必要である。</p>	<p>○登下校の生徒の安全確保とマナー向上のため、登校時8か所、下校時5か所に教員を配置して指導にあたるとともに、各ホームルームや集会においても生徒が自分の問題として捉えられられるように指導方法も工夫する。</p> <p>○基本的生活習慣を確立させるため、毎朝校門前にて遅刻者指導を行うとともに、必要であれば保護者の協力も求めながら改善に向けた指導を行う。</p> <p>○問題行動の防止と早期発見の観点から、昼休み時間等に巡回指導を各学年で実施する。</p> <p>○教員は生徒に対して部活動への積極的な参加を呼び掛けると共に、生徒がより意欲的に活動しやすい環境づくりにも努める。</p> <p>○頭髮・服装等の整容指導、言葉遣いや生活態度に関する指導及びいじめや差別を含む人権教育に関わる指導については、あらゆる場面で恒常的に行われるべき事項であり、生徒指導部を中心にさらに議論を深め、全ての教員が一致協力して実践する体制を確立する。</p> <p>○生徒の実態を把握するため、スクールライフやClassiを有効に活用する。</p> <p>○徳育の側面から奉仕活動(通学路清掃)を年間を通じて全クラスに割り振り、継続的に実施する。またオアソンの精神に基づいた言動を実践させるべく、各ホームルームや部活動、委員会等をより活性化させる。</p>	<p>○今年度も登校時8か所、下校時5か所に職員を配置し通学路指導を継続的に行ったが、外部からの苦情や指摘があった際に臨機応変に配置を移動させ対応した結果、全体的な苦情の件数は減少した。</p> <p>○遅刻者に対する指導を毎朝校門付近において実施し、基本的生活習慣の改善を促した。</p> <p>○昼休みを中心に校内巡回指導を学年別実施し、問題行動の未然防止に努めた。</p> <p>○新入生に対して部活動の加入を積極的に促すとともに、新しくできたスポーツスタジオを含む活動場所を有効利用するためのローテーション表を改めて作成した。</p> <p>○夏休業直前に埼玉県保健医療部薬務課の協力の下、薬物乱用防止のための指導を1学年対象に実施した。</p> <p>○いじめに関するアンケートを6月・12月に、体罰・ハラスメントに関するアンケートを9月・2月(予定)のそれぞれ2回行い、実態把握と問題の未然防止に努めた。特にいじめアンケートについては、12月実施分からいじめの実態をより詳細に把握するため「身の回りにいじめられている人がいないか」という項目を新たに付け加えた。</p> <p>○頭髮・服装等の身だしなみ指導を学年やホームルーム単位で継続的に行っている。</p> <p>○通学路を中心とした地域の清掃活動を年間を通じてクラス単位で実施した。また、各クラスの生活委員が校門前に立ち挨拶運動を実施した。</p>	B	<p>●通学路指導の目的は交通安全と公共マナーの体得・実践にある。全体としての苦情件数は減少したものの、生徒のモラル低下を思わせる事案は減っていない。教員は生徒に対し、自己の安全を確保させると同時に他者に対する思慮や分別のある言動の重要性を理解させ、地域社会の一員としての自覚を促す指導を行う必要がある。</p> <p>●交通安全・サイバーセキュリティセミナー、未成年飲酒・喫煙防止キャンペーン、痴漢犯罪撲滅キャンペーンなど警察・行政等主催の各種活動への参加は、生徒が「公共人」という生き方に共感し、意識の変化を醸成する上で有意義な機会となるので、今後も積極的に取り組ませたい。</p> <p>●今年度、改めて策定した「いじめ防止のための基本方針」についてを基に、教職員、生徒ともにいじめに対する認識を周知徹底し、いじめ撲滅に向けた取り組みを強化する必要がある。また、いじめアンケートの実施についても、Classiのアンケート機能を利用して結果の集約をスムーズに行い、問題があった場合は速やかに対応できるようにする。</p> <p>●服装頭髮指導を定期的に行っているが、一部イベント化してしまっているのが現状である。整容指導については、普段の生活の中で継続的に行われるものであり、一部の教員に任せることなく全教員で対応することが重要である。</p>	<p>自転車通学のマナー違反が見受けられる。特にイヤホンをしたままの走行や、ながらスマホ、複数名での並走やロードの出し過ぎなど、大事故につながる恐れのある事例については改めて全校的な指導が必要である。</p> <p>外部よりの苦情についてはもちろん、生徒の善行についても、生徒だけではなく保護者にも周知してほしい。</p> <p>生徒指導については、女子だけではなく、男子の頭髮についても極端なものは指導すべきである。ただし、感情的になったり、人格を否定するような言葉遣いは避けなければならない。</p>
---	---	--	--	---	--	--

4	<p>○各種の校外行事(オリエンテーションキャンプ、ハワイ短期留学、課題研究)を実施し、それぞれの目標達成に努める。特に「総合的な探究の時間」の一環として4年ぶりに復活するハワイ短期留学の国際理解に対する取り組みは、青年期の発達段階にある生徒にとって大きな意義がある。今後もその効果を高めるため、期間は短くなるがよりアクティブな取り組みの立案と参加生徒の健康と安全の確保について常に検討する必要がある。</p> <p>○文化祭や体育祭の教育的効果は甚だ大きい。前年度の反省を今後の企画に活かす、生徒の意見も取り入れつつ、より質の高い行事となるよう工夫していくことが望まれる。</p> <p>○さいたま市などの行政機関や警察署等が主催する各種のキャンペーンや取り組みは、地域との結びつきを考えると重要である。新型コロナも5月から5類に引き下げられ実施の見通しが立てば、積極的に参加していきたい。</p>	<p>○オリエンテーションキャンプでは、規則の順守、公德心や協調性の体得を重視し、あらゆる取り組みが徳育につながるよう意識して指導にあたる。</p> <p>○ハワイ短期留学の実施に当たっては、期間は短くなるものの生徒の安全を第一に考え、事前指導の徹底(実施の目的、安全、健康、生活態度等)の徹底を図ったうえで、現地UHCと国際教育部との連絡を密にしながら進めていくことが大切である。</p> <p>○松坂屋上野店での課題研究は、キャリアアップコースの4クラスで夏と冬の二つのグループに分けて実施する予定である。キャリア教育の観点からの指導を心掛けるとともに、松坂屋の研修担当者の協力を得て望ましい職業観の育成と勤労意欲の向上を図る。</p> <p>○文化祭では、クラスをはじめその他各団体とも一致協力し、より文化的で質の高い取り組みとなるよう指導する。また、今年度より3年生の一部のクラスに食品販売を認める予定で、特にマスの着用や手指の消毒など衛生管理を徹底させる。</p> <p>○体育祭については、演技種目に工夫を凝らしながら、生徒が一体感や達成感を得られるように指導する。</p>	<p>○昨年に引き続き、群馬県猿ヶ京温泉にてオリエンテーションキャンプを行い、集団生活の規律遵守、協同精神の体得、また生徒相互の親和と教員による生徒理解の良い機会となった。</p> <p>○4年ぶりの実施となったハワイ短期留学では、物価高騰の影響もあり11日間に期間を短縮して実施した。実施に当たり、生徒の安全を第一に事前指導を徹底するとともに、引率教員と当該学年、クラス担任との連携を密に図った。</p> <p>○松坂屋上野店での課題研究(商業実習)は実学とキャリア教育の側面からも重要な行事であるが、相手方の事情から大幅に縮小した形での実施となった。夏季と冬季にそれぞれ2クラスで、ビジネスマナーや梱包作業の体験、職場見学を丸一日かけて実施した。その他、課題研究の一環として、キャリアアップコースのみが併設の浦和大学で2日間の講義を受講し、貴重な体験ができたこと生徒からも好評であった。</p> <p>○今年度の文化祭も、来場者に制限を設けた形で9月9日(土)・10日(日)の2日間に亘って開催した。クラスや部活動のほか、父母の会や浦和大学を含む多くの団体が参加し、展示・販売・ステージ発表などの取り組みも創意工夫が見られた。体育祭は、昨年同様学年ごとに日程を分散させ実施したが、生徒たちのモチベーションも高クラスの団結力が強まった。</p>	B	<p>●来年度で現在のオリエンテーションキャンプの内容となって3年目である。行事そのものに意義はあるが、雨天時の対策の難しさや野外活動における安全面の不安もあり、実施場所の変更も含めた内容の見直しを検討する時期にある。</p> <p>●11日間に短縮して行われたハワイ短期留学だが、生徒たちの実状を考えると適正な期間であるとの声が引率教員からも聞こえてきた。現地でのプログラム内容も含め、こちらも抜本的な見直しが必要時期にきていると思われる。</p> <p>●歴史のある松坂屋での課題研究だが、今までのような形の実際は今後難しいので、生徒独自のマルシェを出店したり、起業家による講演会を行ったりと違った視点で実施する必要がある。</p>	<p>入学して間もない時期に行われるオリエンテーションキャンプは、友達づくりなど人間関係の構築に有効なので、次年度以降も内容を検討したうえで続けてほしい。</p> <p>ハワイ短期留学による海外での生活経験はたいへん貴重なものである。11日間への日程短縮は適正との引率教員の評価であるが、こどもたちの感想も同様である。</p>
---	--	---	---	---	--	---

5	<p>○私立学校の存続において生徒募集が基軸であるということは言うまでもない。すべての教職員がその重要性を認識・理解して募集活動にあたることが肝要である。2023年度生徒募集ではコロナウイルス感染症による制限も少しずつ緩和し、説明会や個別相談もほぼ予定通り行うことができたため、志願者は前年度より463名増加した。さらに新制服・新校舎等の影響もあり、入学者数は近年最大となった。入学者が増えた現状に満足するのではなく、むしろ入学してくれた生徒への教育活動を充実させ、次年度の受験生や保護者を惹きつける学内改革を更に推進し進めることが望まれる。</p> <p>○入試説明会だけでなく、あらゆる機会(本校ホームページ、PTA訪問、校外イベント、塾説明会、部活動など)を募集活動につなげ、本校の教育内容を広報し、『選ばれる学校』を目指す必要がある。</p>	<p>○23年度生徒募集では形態や時間帯を多様化し、校内実施の入試説明会を6回、個別相談のみの回を3回行ったことで来場者が増加した。今年度は個別相談のみの回をさらに1回増やし、WEB説明会も昨年度同様に実施することで、より多くの受験希望者に対応できるようにしたい。また、コースの特色や成績レベルを明確にするため、単願・併願推薦の基準を一部変更予定で、受験希望者だけでなく、中学校・塾等に対しても丁寧な説明を心掛けた。</p> <p>○新1号館が完成し、今年度の入試説明会はスチューデントホール、UJカフェ(食堂)、スポーツスタジオを使用するので、円滑に説明会が実施できるように準備を進めたい。</p> <p>○コロナウイルス感染症による制限が緩和し、中学校PTA来校や中学校での進路講演会などの開催数が明らかに増えている(6月上旬時点)。数多くの校外説明会も実施され、様々なことがコロナ禍前に戻って来ているので、一つひとつ丁寧に対応し広報活動に努めたい。</p>	<p>○入試説明会&個別相談회가5回、個別相談会のみが3回終了した時点で、単願推薦・併願推薦を希望する受験者数は昨年度の同時期を超える数になっている。増加の理由として、コロナ禍で中止となっていた塾や外部団体主催の説明会(25回)や各中学校での講演会(21回)、さらに昨年度より実施したWEB版入試説明会等の広報活動と創立75周年記念事業でもある新校舎や新制服等の新しい教育環境が整ったことが影響していると思われる。北沢テストの動向も増加傾向で本校の教育活動への期待の大きさが感じられる。今後は新しい取り組みについても継続的に検討し、形にしていく必要がある。</p> <p>○9月以降は進路学習を目的とした中学2年生の上級学校訪問を企画する中学校が増え、本校にも8校が来校した。次年度の実験につながるよう今後も丁寧な対応を心掛けた。</p> <p>○今年度も塾や教育機関の関係者対象の本校説明会をベルヒ武蔵野で実施したところ、100名を超す参加者があった。</p> <p>○今年度は本校ホームページをリニューアルし、学校行事や部活動等の情報を積極的に広報することができた。WEBサイトアクセス報告では入試情報や部活動に関する閲覧数も多く、全体の80%以上がスマートフォン利用者であるので、今後のホームページ作成・運用に役立てたい。</p>	A	<p>●2024年度入試における志願者数は普通科2852名(前年+66)、商業科1276名(前年+234)、合計で4128名(前年+300)。入学者数は普通科が646名(前年-107)、商業科が310名(前年+47)、合計で956名(前年-60)である。昨年度と比較すると入学者は減少したが、今年度も募集人員を大きく上まわる入学者数となった。推薦基準を変更した普通科の単願志願者は減少したが、その分、基準を変更しなかった商業科は他校との併願先に選ばれやすくなり、約200名の志願者増が入学者数の増加にもつながった。新制服や新校舎等の新しい環境を整えたことも含め、今後の本校に対する様々な期待の大きさが入学者数からも分かる。</p> <p>●塾主催の説明会、PTA見学会、中学校での進路講演会などもほぼコロナ禍前に戻り、積極的な募集活動を行うことができた。また、コロナ禍にはじめてWEB放送視聴という形式の入試説明会は受験生や保護者からも好評で、個別相談までの流れをスムーズに行うことができるので今後も続けていきたい。</p>	<p>昨年、一昨年と生徒募集は好調であるが、今後、少子化が更に進んでいる中で、10年、20年後を見据えた長期的な募集活動について考えていかなければならない。私立高校の卒業生にとって、母校の発展はうれしいものである。</p>
---	---	---	--	---	--	---